



出雲崎中学校だより

＜第4号＞

出雲崎町立出雲崎中学校

TEL 0258-78-2137

FAX 0258-78-2164

令和6年12月24日発行

「自律」「慈愛」「挑戦」～2学期の教育活動①～

8月26日(月)からスタートした2学期も、残りあとわずかとなりました。今年も記録的な猛暑で、暑さとの戦いからのスタートとなりましたが、様々な場面で保護者や地域の皆様から温かいご支援・ご協力をいただき、生徒は貴重な体験を積み重ねることができました。いろいろな方々とのかかわりを通して、一人一人が仲間とともに健やかな学びを深めていくことを意識して取り組んできた2学期。夏休み期間も含めて、生徒は授業や部活動、各種行事等、様々な教育活動に前向きに取り組み、大きな成果をあげることができました。

出雲崎町総合防災訓練

8月20日(火)に出雲崎町総合防災訓練が実施されました。今年度は、3年生が、西越地区農村環境改善センターで開催された「マイ・タイムライン教室」を受講しました。新潟県・出雲崎町職員の皆様や町の防災士会の皆様から、災害時に備え準備しておくべきこと、避難行動における注意点等の防災に関する知識を学ぶとともに、災害から身を守るために自分たちができることについて考えました。大切な命を守るために、「想定を信じるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」といった意識が大切であること、各家庭で「マイ・タイムライン」を作成し、緊急時の対応について、具体的に家族と相談し、実際の行動に生かすことが大切であることを学びました。本年1月1日に発生した能登半島地震の際も、避難所生活の中で、中学生が自分たちにできることを見つけて行動し、それが大きな力になったという話が伝えられています。出中の3年生も、緊急時には地域の方々の支えになれるよう、今回学んだことを生かしてほしいと思います。



PTA除草作業

8月31日(土)に、体育祭に向けたグラウンドの除草作業を行いました。早朝から、保護者の皆様をはじめ、今年度も民生委員・児童委員の皆様が参加してくださり、生徒とともに汗を流していただきました。多くの方々のご協力のおかげで、手際よく作業を進めることができ、グラウンドがとてもきれいに整備されました。後半は、テントの設営にもご協力いただき、本番に向けた準備が整い、大変助かりました。暑い中参加してくださった皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



体育祭

9月14日(土)、『限界突破』をスローガンに、令和6年度の体育祭を実施しました。猛暑対策のため、今年度は例年より開催時期を2週間遅らせたのですが、本番に向けての準備活動は、相変わらずの暑さの中で、熱中症対策を講じながらの活動になりました。そんな中でも、3年生のリーダーが率先垂範の精神で全校生徒をまとめ、素晴らしい体育祭を創りあげました。競技種目や競技方法については、生徒会本部役員を



始めとする実行委員会のメンバーを中心に検討を重ね、様々なアイデアを出しながら、みんなで楽しめるよう工夫を凝らしました。それぞれの種目は各専門委員会が担当し、委員長のリーダーシップのもと、全校生徒一人一人が役割を担い、責任をもって準備・運営にあたりました。限られた時間を有効に活用し、夏休みから軍ごとに集中して準備活動に取り組みました。軍活動でも、赤軍・青軍ともに団長をはじめとする3年生のリードが光りました。体育祭当日は、町長様や教育長様をはじめとするご来賓の皆様、いつも生徒を応援してくださっている保護者の皆様をお迎えして、体育祭を開催することができました。3年生が上手に後輩を導き、互いに競い合いながらも、応援し合



ったり、讚え合ったりという温かい雰囲気の中で競技が繰り広げられました。1・2年生も3年生の思いに応じてよく頑張り、一体感あふれる一日になりました。「全員リレー」では、全校生徒が全力で走り、全力で仲間を応援する姿が見られ、胸が熱くなりました。プログラムの最後を飾ったのは「応援コンクール」。各軍の応援リーダーは、夏休み返上でダンスの振り付けを考え、それをクラスルームに配信して、メンバーに周知しました。全校の一人一人が動画を見ながら自主練習に励んだことで、今年度は、本格的に練習が始まった

最初の練習の日から、皆がダンスの振り付けを理解していて、スムーズに練習を進めることができました。両軍とも、全員が心一つにして、一体感のある見事なパフォーマンスを披露しました。一日の中で、生徒の笑顔が輝く瞬間にたくさん出会うことができたことを、大変嬉しく思っています。一人一人にとっても、最高の体育祭になったことと思います。



小中合同いじめ見逃しゼロスクール集会

9月24日(火)に、小学校5・6年生の皆さんを出雲崎中学校に招き、小中合同で「いじめ見逃しゼロスクール集会」を開催しました。これは、いじめについての理解を深め、一人一人が自分の言動や仲間との関係を振り返り、「いじめをしない、許さない」さらに「命を大切にする」という意識を醸成するために、毎年行っているものです。最初に、「いじめの定義」を全員で確認しました。いじめは重大な人権侵害に繋がる行為であることを参加者全員で再認識することができました。次に、小中合同で異学年のグループを編成し、アイスブレイクを兼ねて触れ合い活動を行いました。その後、学校生活に関する動画を視聴し、仲間同士でトラブルが発生した際の対処法について考えました。「傷付く人がいなくなるようにするために、私たちはどのような行動を心がけるべきか」をグループで話し合い、全体で意見を共有しました。最後に、担当の役員生徒から「誰かを傷付けようという思いがなくても、知らないうちに誰かに嫌な思いをさせ、相手を傷付けてしまうことがあります。だからこそ、私たちは相手の思いや考えを知るために、積極的にコミュニケーションをとる必要があるのではないのでしょうか。相手を知り、自分を知ってもらいながら、人と人との正しい関わり方を身に付けていきましょう。」という提案がありました。仲間とのより良い接し方等について、今後に生かせるヒントを得られたのではないかと思います。



アントレプレナーシップ講演会

10月7日(月)、2・3年生を対象に「アントレプレナーシップ講演会」を開催しました。新潟県教育委員会では、アントレプレナーシップ教育を「様々な社会変化の中で、主体性をもって課題に挑む人材を育成する教育」と定義し、予測困難な時代を生き抜くために、課題に対する向き合い方を学ぶことの大切さを訴えています。これからの時代は「起業家精神(チャレンジ精神、創造性、探求心等)や起業家的資質・能力(情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力、課題発見・解決力等)」の育成が求められているということで、今回は、長岡技術科学大学大学院修士1年の____様をお招きし、「挑戦の始め方」と題した講演をしていただきました。____様は19歳の時に、高齢者を対象としたITのサポート会社を起業されました。また、4か月間インドで留学生活を送られたのをはじめ、モンゴル、タイ、アメリカ等への海外旅行を経験されているということで、「学生で社長になる方法」「自分が住んでいる地域で活動する方法」「海外への行き方」といった内容について、ご自身の経験を具体的に紹介していただきました。多くの生徒が、____様の前向きな考え方や生き方、行動力に感銘を受けるとともに、「やろうと思えば大体のことはやれる」「失敗を恐れるのではなく、“どうやったらできるか”を自分事として考えることが大切」という言葉が大変印象に残ったと振り返っていました。

